



FOA・EAST

NEWS No. 14

1995. 3. 26

フットボール

六十周年を迎えて

日本最初のレフリー

数内 直樹

六十年の歴史を積み重ねた日本のアメリカンフットボール。様々な記念事業が企画される中で、日本協会では清里のポール・ラッシュ記念館に「アメリカンフットボールの殿堂」を建設する事を決めた。キーパ協会の全面的な協力を得て具体的な計画に入っています。

関東審判部でも、日本学生協会や日本社会人協会等と共に建設資金の一助に寄附金を提出する事になっています。さて、「日本アメリカンフットボールの父」ポール・ラッシュ博士は昭和九年、当時立教大学の教授として、数多く来日していたハワイ出身の日系二世の留学生への適切な娯楽の提供のためにアメリカンフットボールの日本での導入を計ったのです。

力等で、日本最初のアメリカンフットボール公式試合が明治神宮競技場で、横浜カントリ・アンド・アスレチック・クラブ（略称YCAC）と全東京学生選抜チーム（早・明・立選抜）の間で行われたのです。結果は26対0で東京学生の圧勝。最初のTDはF B川原（早稲田）のランプレーと記録されています。この試合の審判も記録されており、レフリーはジョージ大尉（アレキサンダー・ジョージ大尉駐日大使館付武官）で、陸軍士官学校でオールアメリカン級の名プレイヤーだったとあります。アンパイヤは、アーノルド・ファウラー氏（立教中学体育教諭）、他四名の審判員の名前が残っています。競技規則は当然NC A A公式規則で、当時はフォワードパスにいくつかの制限のあるものでした。この時の審判クルー、特にレフリーのジョージ大尉のオレイシエイティングはどの様なものであったか、想像するだけで楽しくなります。Y A C Aはアメリカ人だけでなく

、未経験なフランス人、ベルギー人も含まれていて年齢もやや高く、東京学生選抜に追い込まれてバーソナルファウルや十二人による「不正な参加」といった反則が記録されています。

この昭和九年十二月から三大学によるリーグ戦が始まり、日系アメリカ人で固め経験豊かな明治大学が全勝優勝しました。各大学の卒業生から審判員になる者が始まるまでの数年間、米人教師や大使館関係者にオフシエイティングを委ねながら、審判技術の指導を受けていたものと思えます。

昭和十三年ころから、日本の戦時体制の強化に伴い、アメリカンフットボールへの影響も競技規則の「日本化」となって表れ、①審判への抗議の禁止、②フィールド内への飲料水の持ち込み禁止等が加えられました。

審判の歴史も、このフットボールの発展と共に六十周年を積み重ねてきた訳ですが、この節目の機会に、もう一度創成期の先達に指向した、スポーツの原点「プレーヤーの楽しみのために」ということを、かみしめながら私たちの活動を進めていきたいと思えます。

（アメリカンフットボール五十周年記念誌を参照しました）

◆ 短 信 ◆

◎平成六年度「納会」中止に...例年二月に行われていた関東審判部の「納会」が今年度は中止になりました。

これは神戸を中心に大きな被害がでた「阪神・淡路大震災」によって、関西審判部の他、多くのフットボール仲間が被災した方々が被災したことに伴って、関西審判部として納会を開催する代わりに義援金を送るべきだ」という意見に多数の部員から賛同を得て決定したものです。

なお、これと同時に献血にも御協力をいただいた部員の皆様に、厚く御礼申し上げます。

— ○ —

◎「合同会議」開催...三月十二日、水道橋・後楽ビルにおいて、理事、監事、委員会、ブロックリンダー、ミニクリンダーが集まり、合同会議が行われました。これは例年行われた「清里合宿」の年の「幹部会議」に変わるもの。六十周年という節目の年を迎えた今年、関東審判部の将来の発展のためにという目的で開催されたもので、約四時間にわたり、活発な意見の交換がなされました。

SFOA年次大会

出席報告の記

坂井 淳・伝田 晴久

坂井・伝田の二人は、高校

一年の時、タッチフットボールに出会い、すっかりフットボールの魅力に取りつかれてしまっていた。審判の仲間に入れていただき、以来いわずにフットボール関係者として三十有余年……。一九九四年夏は八月、二人は永年勤続のご褒美として、SFOA(South West Football Association)の大会(1994 Annual Meeting)に派遣して頂きました。F.O.A.の皆様のおかげで、素晴らしい体験をさせて頂きました。心から感謝申し上げます。今、この原稿を書いておられますのは一九九五年一月。アルツハイマー(あるいはアル中)が進みました二人、半年前のことがナカナカ思い出せづ困っておりますが、当時のメモの類をたよりにご報告を

☆旅程は次の通り

八月十一日夕方、成田を立ちましたが、途中経由地での待ち時間もあり、オースチンに着きましたのは深夜でした。十二日は一日中ゆっくりした。夕方方のプログラム「Stump the Expert」から参加しました。翌十三日と十四日の午前中、いろいろなセッションに参加し、その後、ロサンゼルス経由で帰国しました。以下、いくつかのトピックスについてご報告させていただきます。

☆トピックス

①大会の概要
我々が参加した年次大会は、評議員会議(BOD)、地区ごとの支部長会議、表彰式、朝食会、総会などのマネジメント関係の会議、テクニカルセッションに代表される技術会議、審判用具販売の店、ゴルフコンペ、2・5マイルレース、ご婦人方のためのショッピング、などの各種の

アトラクションなどで構成されていきました。アメリカの方々は早起きらしくて、BODなどは朝六時から始めているようでした。

②テクニカルセッション
ひとつのセッションは九十分で、六、九本が同時並行的に開催されていました。盛り沢山のプログラムがあり、全ての内容に触れることは無理ですが、テーマ(セッションの名前)だけ紹介しますと次のようになります。

- レフリー(3)
 - アンパイア(3)
 - ラインズマン(3)
 - ラインジャッジ(3)
 - バックジャッジ(3)
 - キッキングゲーム(2)
 - ランニングゲーム(2)
 - フイールドにおけるコミュニケーション(2)
 - 得点/罰則の施行(3)
 - 2/3人制メカニック(4)
 - 4人制メカニック(3)
 - 6人制フットボール(2)
 - ルール/質疑応答(2)
- ()の数字は同一テーマのセッション数を十二人のインストラクターが分担しておりました。各インストラクターは皆、お手製のOH Pを使いながら大変熱心に解説を行っていました。そして、どんな質問が出てても即座に答えるのはさすがでした。中にはつまらない質問もあったようですが……。

③スペシャルスピーチ
表彰式のゲストスピーカーは、あのスーパースター、フレイ・シーマン(NFL ジェリー・シーマン)という審判組織ダイレクター、朝食会のゲストスピーカーは、テキサス大学ロングホーンヘッドコーチ、ジョン・マコービックという豪華な顔触れでした。ユーモアたっぷりのスピーチ(のよう)で、皆が爆笑する中、約二名二コリ人、フランク・人がいると多少は救われるのですが……。

誠に残念ながら、我々二人の英語力ではジョークを理解するのはとても無理でした。しかし、聞き手の尊敬を一身に浴びて、力強く、大きな声で滔々と語るシーマン氏。人柄の良さをにじませ、若いプレーヤーを魅了するであろう優しさで語りかけるマコービック氏。いずれもステータスの高さを、十分に感じました。

この時、これはルイスさんのとてつもない好意ですが、我々日本人四人(坂井、伝田、他に関西から来られた吉岡氏、浜田氏)を最前列、中央の一番いい席に案内し、参加者全員を紹介してくれました。もちろんこの席にゲストスピーカーが座る訳ですから、私たちは超VIPと同等したことになると思います。もったいない

なくて涙が出るほどの感激でした。

④ ダラス・カウボーイズの練習

近くの大学のグラウンドでカウボーイズが練習しているという話を聞きつけ、日本人四人で見学に参りました。プロの練習を見ることができるといっただけでも感激の極みでした。グラウンドは二面あり、それを囲う金網には広告等が張り巡らされ、グラウンドの横にはカウボーイズの大きな看板とテントのNFLグッズ店が立ち、若者、子供たちが群がっていました。みんな実にラフな恰好で、中には目のやり場に苦労する（実際は少しも苦労しませんでした）が、ようなお嬢さんもいました。とにかく、大変明るく、練習もショウという感じで、まさに見るスポーツ。かっこいいお姉さんがアルファベットの順に選手の名前を並べたリストを配っていました。一枚一枚もらいましたが、そこには名前の他にポジション、身長、体重、NFL経験年数、出身大学、さらに何とHigh Schoolまで書いてあるのです。私の知っているプレイヤーにはエイクマンだけですが、そこ

No. 8
NAME
P O S A i k m a n , T r o y
H G T 6 1 4
W G T 2 2 8
B I R T H D A T E 1 1 / 2 1 / 6 6
N F L E X P
H I G H S C H O O L H O M E T R Y W e t t a , O K
H O M E T O W N

のように書かれていました。彼の地の人々は名前をよく知っているからアルファベット順でも良いのでしょうか、こちらはグラウンドの中で目立つ選手の背番号を見てリストを見る訳ですから、探すのにひと苦労。九時半頃から聞いており、九時半頃からです。ナカナカ選手は現れませんが、グラウンドキーパーのみ黙々と、というよりはのんびりと練習用機材を運び出し、グラウンドの要所要所に配置していただきました。これ一時間ほど待たされましたが、少しづつ選手がグラウンドに出で参りました。お目当ての選手を見つけ、求めたり、いずこも同じ光景

でした。グラウンドの中は大変な競争でしょうが、外の我々は大いに楽しめるという感じでした。日本では橋を組みますが、彼の地では高所作業車を使い、十数メートルの高さからビデオで撮影していました。しかも荷台も使用していません。やはりルーキーは鍛えられ、何回も何回も同じプレーをやらされていました。

⑤ オースチンの街

ガイドブックによれば「テキサス州の州都オースチン。州会議事堂を中心に作られた街並みは、州都にふさわしい静かで落ち着いた雰囲気だ。全米でも最大規模を誇るテキサス大学オースチン校があることは有名……」というので、どんな街かと思っていたら、大変静かな、こじんまりとした街でした。我々をいろいろと面倒を見てくれた、警察署の署長・ビルさんによれば、オースチンは大変安全な街との事。オースチンに限りませんが、円高の恩恵・物価の安さにはほんとにびっくり。ある夜、車でかなりの距離を走ったところにあるレストラン「OASIS」に九人で出掛けました。我々日本人四人の他、ルイスさんは来られませんでした。

だが、ルイスさんの奥様・ペギーさん、弁護士のアステイ・ゴ夫妻、ビルさん、ともう一人審判仲間のようでしたが、この九人で夕食に出掛けただけです。マルガリータを何杯も飲み、いろいろな料理を沢山食べて、さて会計。恰好ついていた「ここは我々で」などといういながら勘定書を見てびっくり。九人で飲み食いして二万四千円。よっぽどみずばらしい物を食べたか、あるいは伝田と坂井のことだから酒ばかり飲んでいて料理を頼まなかったのだらうなどと思われそうですが、決してそんなこととはありません。ちゃんとしただいた上での二万円でした。

⑥ ルイスさんと奥さんとその友人の方々のこと

アメリカ人はいろいろ言われますが、そのひとつに「アメリカ人はほんとに親切だ」というのがあります。そうでもない人も沢山いるとは思いますが、ルイスさんご夫妻とそのお仲間たちは真正銘親切な方々でした。着いて早々、朝食と一緒にとうとうというところで、ホテルのレストランにて待ち合わせをしました。四人でレストランに行くと既にルイスさんはおられました。ほどなくごつい大男と長身の紳士が現れ同席した。この大男が警察署長ビル

さん、長身の紳士が弁護士のラスティさんでした。たまたま一緒にになったと思ったことが、これは後で気がついたことであるが、我々の面倒を見るために紹介してくれたようでした。ビルさんは独身だそうですが、ラスティさんは奥さんとともに、我々の面倒を本当によく見てくれました。例えば、食事誘ってくれたり、その後車で市内をいろいろ案内してくれたり、例のOASISでの食事の後など、夜の十一時を回っていたと思うが、わざわざテキサス大学のロングホーンスタジアムを見せに連れていってくれ、車から降りて写真を撮るならここが良いと案内し、シャッターを押してくれました。ルイスさんは大会を取り仕切っておられました。周囲の方々がルイスさんに尽くしているというのがよく判ります。やはり長いキャリア、優れた業績、たぐいまれなるリーダーシップのなせる技だと思います。そして奥様が日本の方というのをご存じの通りですが、このペギーさんが実に日本的で素晴らしい。日本では遠くからしかお目に掛かっておりませんが、言葉もかわりませんし、言動もかわりません。現地でお話し、行動を共にして初めてその素晴らしさが判りました。「日本人で

あるベギーさんがルイスさんの奥さんであることが、日本のフットボール界にとつてどれほど幸いなことであるか」といふのが坂井・伝田の共通認識です。

例えば食事の時、ベギーさんはルイスさんの好物を自分の皿から取り分けルイスさんの皿に、ルイスさんがあまり好きでないらしい物はルイスさんの皿から取り除く。周囲の人にも、これは美味しいから是非食べてみるといつて分けてあげる。少しも気取らず、陽気に振る舞いながら、誰も分け隔てしない。多分ルイスさんはベギーさんを通じて大和撫子の優しさを理解され、日本が大好きになったに違いない。だからこそ、我々に対してこんなにもよくしてくれたのであろう。そうとしか考えられません。

さらに言えることは日本びいきになったルイスさんの好意に、FOAの方々がますます応えていることが、ますますルイスさんを日本びいきにしているのであらうと思ひました。そして、ルイスさんとFOA Japanとの関係を、今後にも維持したいと欲しいと思ひました。

☆編集後記☆

東京から田舎（三浦三崎）に引っ越して、早まる四ヵ月になります。

最初は「買い物に不便だ」「遊びに行く（飲み）ところがない」などとグチをこぼしていましたが、今じゃ裏山のウグイスの声で目をさますなど、だんだん「仙人」の境地に入ってきたみたいです。

おまけに朝は午前二時に起きて六時頃まで新聞配達。ちよつと休んで昼の仕事、そして夕刊の配達。おかげで三ヵ月で十五キロの減量に成功。学生時代のジーンズをはけるようになりました。興味のある方は、次回フィールドでお会いするのを楽しみに！

さて、今回は藤内部長、洋行帰りの伝田さんに原稿をいただききました。これで私が担当するようになった三号目のニュースとは、ちよつと雰囲気の変つたものになりました。この原稿が、とても人柄を表したいいものであったから、他にないからだと思ひます。いつもワープロに向かつて原稿を打つとき、なるべく途中でカットしない主義なのですが、今回は特にカットしたところか、打つ

のが楽しいといった感じでした。本当にありがとうございます。

また、当初「納会」で配付する予定だったため、伝田さんには出稿を急いでいただきまして、申し訳ありませんでした。きれいなワープロでうった原稿で、私のワープロの方が能力が低いため、そのまゝの形で掲載できないことをお許しく下さい。

さらに完成が遅れたため関係各位に大変ご心配をおかけした事をお詫びいたします。これから、ちよつと変わったFOAニュースを目指して頑張っていきたいと思ひます。実家のFAXがいつでも利用可能なので、皆様からの原稿、その他お待ちしております。

までお送りください。宜しく
お願い致します。

（花岡）

FOA EAST NEWS
日本アメリカンフットボール
審判協会関東審判部・機関紙
発行・一九九五年三月二十六日
※無断転載、引用を禁じます